



藏書抄

自
八
十
二

國
十
二

服部文庫
117
88
3



陽禁侯卷之八

入惜生舍伍橋居後水石中得處入水之始未
有什宜誠主猶系肉也既遠處其

啓之々事

一、享保曆甲午八月十日。岩清水八幡宮主合會。
系代云家元由路之吉田福榮内也氏所分定。
樹下石少橋板橋柳。清水谷方中町左京地入
水亦耳。肉多之人波隔死。依之内通。家老并
曾指其多。徑へて此越上乃之事。上下は廣橋
大納言等より。々々奉儀坊城宰相兼友。日理

穠華肉色

蘇軾詩集卷之六

内區所集不家元
子人

已乃那夢
天人

持隨舍者
五人

右局直子美金吾族抄有之矣

一石守歲首

上ノ地ニ在ル何ノモテ其作ノ入ニモハスルノ事ハ
 何細クモ代ナラズ其ノ所ニハハ人知ルモ其ノ事
 只今ニカキルハハ人知ルモ其ノ事ハハ人知ルモ
 其ノ事ハハ人知ルモ其ノ事ハハ人知ルモ

未九月
 午也
 所和寺

当寺境内畑ノ内分有陸八段七斗又陸

楊公ノ一ノ段ノ路ノ左

- 一 永樂通宝
- 一 元豐通宝
- 一 元祐通宝

一 皇宋通宝

一 洪武通宝

一 開元通宝

一 熙寧元宝

一 至元通宝

一 祥符元宝

一 紹元 熙寧

一 大觀通宝

一 聖宋元宝

一 咸平元宝

一ノ段ノ路ノ左

一ノ段ノ路ノ左

一ノ段ノ路ノ左

一ノ段ノ路ノ左

一ノ段ノ路ノ左

一ノ段ノ路ノ左

一ノ段ノ路ノ左

一ノ段ノ路ノ左

一ノ段ノ路ノ左

一ノ段ノ路ノ左

一ノ段ノ路ノ左

一ノ段ノ路ノ左

一政和通宝

小百文

一天聖元宝

三百文

一景德元宝

四百文

一嘉祐通宝

六百文

一天禧通宝

九百文

一淳和元宝

千文

一宣德通宝

千文

一正隆元宝

千文

一淳熙元宝

千文

一朝鮮通宝

千文

一

千文

一

千文

一

千文

一

千文

一

千文

一

千文

一

千文

一

千文

一

千文

一

千文

一宋元通宝

十九文

一紹元通宝

二十文

一太平通宝

十八文

一定和通宝

十七文

一大定通宝

十七文

一乾元通宝

十六文

一嘉定通宝

十五文

一慶元通宝

十五文

一大中通宝

十四文

一瑞平元宝

十四文

一淳祐元宝

十四文

右一亦一右の字或久字漢滅仕部見分口
 古文一内積一法あるは自部見分口
 右一通 二部 書付るは字と社字の月書大因
 越部とれ是部也

武陽禁漢光九

目錄

一歲餘年人正過為人喧嚷一事 附 市居始末事

一橫田志為舊經書山新大場之碑久年八町人老

一歲餘年人正過為人喧嚷一事

一歲餘年人正過為人喧嚷一事

云陽禁陸零九

成康集人正辻當人喧嘩之事付所屬路米之事
 一申、本年五月七日成康集人正辻當人喧嘩
 之事、主該意と少お知、是恒松中、申六と、若松、申六
 と、若松、申六と、人の月、鈴本、急七と、若切、係と、れ、海、あ、人
 お、人、中、依、く、申、六、人、言、は、番、給、明、か、く、石、あ、人
 泊、を、と、く、言、を、と、く、家、一、と、若、松、あ、人、生、あ、人、町、人
 と、申、六、あ、人、海、り、足、う、か、あ、人、若、松、を、お、取、太、豆、恒、係、申、六
 と、若、松、あ、人、知、く、せ、く、き、と、付、先、あ、人、を、申、六、あ、人、若、松、あ、人、太、豆、恒、係、申、六
 と、若、松、あ、人、知、く、せ、く、き、と、付、先、あ、人、を、申、六、あ、人、若、松、あ、人、太、豆、恒、係、申、六

里谷津門山岳下
 今昔多人事
 所何
 子也
 方之看之根より網を分経装袋日幸々不
 地糸より一厚紙三寸経紙をうきわし即死

[illegible]

古月古

如承早人
印家外

二五 助方

引水入通

五月廿一
亥

今切

修本系七

けふ人あふ
けふ人あふ

吳村印

甲申郡飛

松本

いふ所を飛とるふふ

右申六聖飛とりふふ所の中飛とる七聖飛とる
初飛那飛とるふふ飛とるふふ飛とるふふ飛とるふふ

五のり

二聖助大

飛とるふふ

右申通井中申とるふふ飛とるふふ飛とるふふ飛とるふふ
上申通井中申とるふふ飛とるふふ飛とるふふ飛とるふふ
右申通井中申とるふふ飛とるふふ飛とるふふ飛とるふふ
八日とるふふとるふふとるふふとるふふとるふふとるふふ

書し終る所を飛とるふふ飛とるふふ飛とるふふ飛とるふふ

右申通井中申とるふふ飛とるふふ飛とるふふ飛とるふふ
上申通井中申とるふふ飛とるふふ飛とるふふ飛とるふふ
右申通井中申とるふふ飛とるふふ飛とるふふ飛とるふふ
八日とるふふとるふふとるふふとるふふとるふふとるふふ
書し終る所を飛とるふふ飛とるふふ飛とるふふ飛とるふふ
右申通井中申とるふふ飛とるふふ飛とるふふ飛とるふふ
上申通井中申とるふふ飛とるふふ飛とるふふ飛とるふふ
右申通井中申とるふふ飛とるふふ飛とるふふ飛とるふふ
八日とるふふとるふふとるふふとるふふとるふふとるふふ
書し終る所を飛とるふふ飛とるふふ飛とるふふ飛とるふふ

仍所不知也。予人志过。人而志之。通其如。至
上。大。所。市。目。付。安。部。之。斗。即。七。本。部。中。所。守
以。所。之。上。也。

五月廿日 版部年人正

主斗部。市。目。付。安。部。之。斗。即。七。本。部。中。所。守。

五月廿日 过者不面者

里。部。中。所。守。 治。年。系。七

里。部。中。所。守。 里。部。中。所。守。

里。部。中。所。守。 里。部。中。所。守。

右。事。六。里。部。中。所。守。 里。部。中。所。守。

五月廿日 成。部。年。人。正

右。部。中。所。守。 里。部。中。所。守。

有。

一。回。八。日。之。斗。即。七。本。部。中。所。守。

市。川。 八。部。中。所。守。 里。部。中。所。守。

是日雨止。云云。張氏以指圖一通。云。十七日。
以十九日。三日。各。此。中。不。注。書。其。計。底。
市。中。上。

四月廿日

張氏以指圖一通。云。十七日。

一。今。亦。百。上。者。所。以。小。人。目。付。其。人。手。紙。信。松。林。多。是。
我。等。以。右。攝。其。者。市。中。所。以。事。行。石。河。土。信。者。
須。屋。裏。持。其。下。者。信。中。信。一。信。者。以。通。沙。通。者。
內。之。通。亦。形。認。也。

市。中。者。從。山。月。付。中。授。以。信。後。者。信。者。信。者。
三。日。子。信。者。者。市。中。信。者。石。河。土。信。者。信。者。

持。其。下。者。信。中。信。者。信。者。

申。四。月。廿。日

張氏以指圖一通。云。十七日。

伊。藤。治。助。氏

右。之。通。信。者。月。者。町。以。事。行。石。河。土。信。者。者。松。林。多。是。
右。張。氏。持。其。下。者。信。中。信。者。信。者。石。河。土。信。者。信。者。
市。中。者。從。山。月。付。中。授。以。信。後。者。信。者。信。者。
三。日。子。信。者。者。市。中。信。者。石。河。土。信。者。信。者。
持。其。下。者。信。中。信。者。信。者。

元。又。五。年。申。四。月。廿。日。成。康。年。人。心。方。以。此。信。者。

後下小一内平然曉付振編義一様れろくは高月
十官表て付辻青人見如く南西青洲目印中
あるは乃に言師振くは乃師は乃其る言其は乃
又の御目付能智玉に師は乃其る言其は乃
其納は振くは乃其る言其は乃其る言其は乃
使名振振其る言其は乃其る言其は乃

一右振元石河少依中言一打集高屋の取集高屋の取
力高屋の取集高屋の取集高屋の取集高屋の取
一右振元石河少依中言一打集高屋の取集高屋の取
一右振元石河少依中言一打集高屋の取集高屋の取

一右振元石河少依中言一打集高屋の取集高屋の取

右振

切羽能焼付

陽さる

紋白

紙赤河就くは彫

目貫焼付砂

赤くは眼

以赤網七巴令紋

柄糸黒

下統紳

小柄赤洞

小刀強何と並通

右へ通る所を町山等より不れ持来し最ふふ付
持来し母右へ山等より持来し最ふふ付
ふい後者人たの小人目付口書中後了所大認め
取し後事お解

信者不勤比しし分

一上野

増子

御成

之人有強

此御成方角
山等より

若月原斗目麻下

家元

之人

用人

之人

廣田國麻下

留也居

之人

醫師

と習

名乗

略之

料理人

右方儀は儀お當へ掌内中をも退去し最ふ右方以

一還所お解何所機嫌也

城養者書
名れ
福人

但所養者退去は

名れ

於京山場をより大目付人

中幸右小礼を山城中付了切替も可斗し如右儀

何と一所門當者と大認め事

一御鷹野

御成し最ふ之人裏付上下當士羽織袴

一 若用之

一 竹子代採山王 街社系之 其勤方之 法事以 祝式

一 街成之通

一 街門 通御之 長和之 上迄有之 其街門者也

大約之 採之 長和之 少方之 為祝式 其街門

但麻之 下等用之 其街門者也 其街門

上迄之 山孔一 街門 上迄之 其街門者也

日

一 右之通 街成之 長和之 少方之 為祝式 其街門

街門者也 大約之 採之 長和之 少方之 為祝式 其街門

其街門者也

一 街門者也 通御之 街門者也 其街門者也

家元

其人

用人

其人

為人

其人

為人

其人

一 右 通御之 長和之 少方之 為祝式 其街門

街門者也 大約之 採之 長和之 少方之 為祝式 其街門

一 街門者也 大約之 採之 長和之 少方之 為祝式 其街門

街門者也 大約之 採之 長和之 少方之 為祝式 其街門

氏陽禁後卷之十

大 仰後所觸家之類 元文士甲年二月
九月迄一記

梅溪前中納云平云自南都屋後大何陽機嫌
和事四家書 松平隆興書父子松平大隅書為諸誠前
家御三家廣流所傳代大名信元所養名者斗分
能少書宅上供者上元光緒年立國在邑一西一
必乃之候也

但右一平一何陽機嫌云乃也

一大目付九本屋以少書付一守

通白一而一守以役人知所役人知人守後狀

中

一
中
書

今乃知事ハ乃々吾輩乃々今々生々降臨理麻味
々々音曲字有々乃々交々乃々以乃々中々葉々乃々乃々乃々

五月

一、東方朔筆法

其方以心求之。及至其時。心已得。身亦得其
 而內。此則向者所事。在乃和格也。今後
 亦未始大各持。初會一。後有也。況亦有之。其
 誠意之。則金不及中。所被威。其受之。所以
 一。故其外。其法。子。誠。中。格。望。下。於。心。以。是。又。
 說。太。極。一。學。者。居。本。上。合。一。後。名。不。令。道。存。之。能。
 白。後。下。的。等。可。以。為。道。之。不。性。乎。格。下。而。乃。自。

六月

一 諸君に御書付し奉

又今より月就き此におよそ元とては所育に
聖月より御書付し奉るに不意に名向後而も
衆望にてもなること月より及就に御成り
是れに

右より通し奉るに

一 町方御解し奉

宮古諸君後め一先達にお止し候し候に
お住方よりお住方よりお住方より
い候に御書付し奉るに
有るに御書付し奉るに
是れに御書付し奉るに

六月

一 七月一日中候し奉

中根氏後書

中根氏後書

子 中根氏後書

旧臘^十日^十所^十奉^十行^十下^十に^十お^十住^十方^十より^十御^十書^十付^十し^十奉^十る^十に^十不^十意^十に^十名^十向^十後^十而^十も^十
立^十去^十に^十後^十に^十御^十書^十付^十し^十奉^十る^十に^十不^十意^十に^十名^十向^十後^十而^十も^十
眼^十元^十に^十御^十書^十付^十し^十奉^十る^十に^十不^十意^十に^十名^十向^十後^十而^十も^十

一 諸卿後人から 作後山所書付字

一 配分法用入書り、長を承け人へするに同法
子に其日此に 所教に書有し中、意解親教又
壬日傍に書り、向後、其の書が、其の原に、其の
右に通書、其の通書

申七月

一 三子所及申より、其の原、其の書付、其の字

一 院書女、其の原、其の字、其の字、其の字、其の字

一 其の原、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字

一 女、其の原、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字

一 其の原、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字

一 其の原、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字

一 其の原、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字

一 其の原、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字

一 其の原、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字

一 其の原、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字

一 其の原、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字

一 其の原、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字

申七月

一 其の原、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字、其の字

宣七月

一 佐向水々任候小市書付し字

五子馬月頃所礼目より小市市丸ははるゝま

西丸七々お教へ雪々下系月所より云々お教

市所より云々西丸小出あゝ向あ

市丸七々お 城へと云々松平氏お教候事多伊豫

市丸七々お 市丸七々お 市丸七々お 市丸七々お

市丸七々お 市丸七々お 市丸七々お 市丸七々お

市丸七々お 市丸七々お 市丸七々お 市丸七々お

市丸七々お 市丸七々お 市丸七々お 市丸七々お

八月

一 所方々所方々所方々

所方々所方々所方々所方々所方々所方々所方々

所方々所方々所方々所方々所方々所方々所方々

所方々所方々所方々所方々所方々所方々所方々

有

申八月

九月 十月 十一月

左馬頭

羽倉

千石武和子人々所より去々々々々々々々々々々々

此元系於傳夢之江月分人院之書記なり
格別之由あり以親式之御月比等也格別之役なり
之とある人等も不在同書不調法之と云依
閉門よりす

右之太坊之智極少例に宅と後

申九月

一甲州信州大寺觸之類

寺社等より大祀者ありて我々甲州信州國中おと
りて格別之書記格別なり今日此等長年寺社社
佛閣所より書記ありて及今より寺社等より格別

馬より後長年書記ありて及今より寺社等より格別
右一通毎國中一箇所より代々大寺社等より及今
格別之書記ありて及今より寺社等より格別

中九月

元文五申年水損屋一面

二万七千九百四十

水損屋一面

六千八百七十七

松平但馬守

二万七千七百四十

水損屋一面

四千五百七十七

一柳 集人

二万七千七百四十

松平但馬守

二万七千七百四十

万部若狭守

二万七千七百四十

松平但馬守

二万七千七百四十

土屋大門

二万七千七百四十

松平但馬守

二万七千七百四十

月田徳以所

石井三郎 九鬼伊勢守

八斗松本 中野松本

二斗松本 小松系松本

二斗松本 土井大和

二斗松本 久世院松本

二斗松本 松平号松本

二斗松本 青山伯松本

二斗松本 松本同松本

二斗松本 細川松本

二斗松本 林氏松本

二斗松本 酒井松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

二斗松本 松本松本

三石名 毛利國防書

三石名 松平主水

三石名 京極中將

三石名 今未三補

三石名 松平南中

三石名 松平近酒允

三石名 今未三補

三石名 松平南中

三石名 收飛氏部補

三石名 松平兵部補

三石名 土井中將

三石名 山口中將

三石名 仙石中將

三石名 何部中將

三石名 戶次中將

今限以習 元文己年宗對了書

初左延 云後 松平近酒允

一令限以習 付組解人參代系文島 後世美事

我之 亦 松平近酒允 元文己年宗對了書

松平近酒允 元文己年宗對了書

松平近酒允 元文己年宗對了書

松平近酒允 元文己年宗對了書

松平近酒允 元文己年宗對了書

松平近酒允 元文己年宗對了書

松平近酒允 元文己年宗對了書

1845

the first of the year

the first of the year

the first of the year

the first of the year

the first of the year

the first of the year

the first of the year

the first of the year

the first of the year

the first of the year

the first of the year

the first of the year

the first of the year

the first of the year

the first of the year

the first of the year

the first of the year

